

世界的視野が必要

中 村 元

中村元先生のプロフィール

大正元年生まれ

東大名誉教授

東方学院院長

仏教哲学・インド思想比較思想論の研究で有名

主な著書

「新仏教辞典」

「インド思想の諸問題」

「仏陀・大乘仏教集」

「ブツダの言葉―スッタニパータ」

黒田武志氏が独自に、独力で海外留学僧を外国へ派遣されるということは、非常な快挙だと思います。日本仏教の起源を尋ねれば、いくつもの外国を経てはいつてきたわけですが、島国独自の事情があり、ことに徳川時代に三百年も鎖国を続けたことから海外との接触は弱かったと思います。

それは日本独自の文化を育てるという意味では、いい点もありましたけれども、どうかすると井の中の蛙大海を知らずということになる恐れがありました。現在でもその傾向が見られるようです。

いま日本の国は、世界の荒波の中に置かれています。仏教とても世界的な視野をもって活動するのだければ、日本人を指導することは出来ませんし、いわんや、

外国に向かつて働きかけるといふことは不可能であります。

日本の都会でいただいている食糧も、大部分は外国から来ていると聞いていますが、それぐらい諸外国と日本とは密接な関係があります。したがって将来の日本を築く方は、どうしても外国を見て、その上で反省して、従来の日本仏教の持っていた特長を、どのように発展させたらいいかということを考えてみる必要があると思います。

書物を読むだけでも相当目的は達するわけですから、やはり自分で、じかに外国の空気にぶつかってみることが大切だと思えます。単なる観光とても、むしろ意義のあることには違いありません。けれども、単なる観光ではなくて、諸外国の精神的基盤にまで踏み込んで、身を似て体得するといふことが是非とも必要でありましょう。

本年度はアメリカとインドへ留学僧を送られるそうですが、どちらも大きな意味のあることだと思えます。

インドは申すまでもなく、仏教発祥の地であり、いったんはイスラム教の軍隊に滅ぼされましたけれども、現在は着々と復興しつつありますし、ことに仏教精神を重んじるということは、インドでは朝野を通じて認められていることです。仏教復興の姿を自分で見るといふことは、大きな意義があると思います。

他方、近代文明の行きつく最先端にアメリカの文明があると思います。アメリカはヨーロッパより以上に近代的であり、新しいものを実現しました。その新しい精神的雰囲気の中で、仏教がどのような役割を果たすことになるのか、これをじかに体得することは、将来、日本を指導していかれるためにも有意義なことですし、また広く諸外国と交流をはかる上でも重要なことだと思えます。

諸方面の若い方々が、希望に燃えて、大いに志願され、そして審査員の方々が最も適当と思われる人々を選抜されて、この偉大なる目的を達成されることを切に願ひいたします。

(談)